

4 カメムシ類による斑点米の発生防止

1 カメムシの発生・増殖しにくい環境づくり

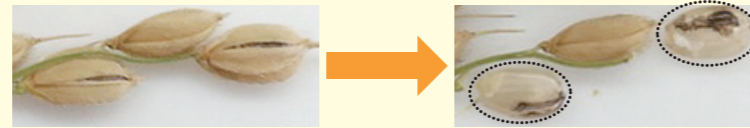
- 麦あと田では、大豆、園芸作物、緑肥等を栽培し、雑草の繁茂を抑制
- 畦畔等の雑草地は、**イネ科雑草の穂が出る前に草刈り**を実施



アカヒゲホソドリカスミカメ (体長約6mm) アカスジカスミカメ (体長約6mm)

2 割削の発生軽減

- ケイ酸質資材の施用
- 適正な栽培管理による目標とする籾数の確保

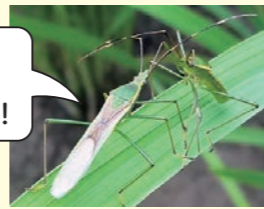


籾が割れると、カメムシが吸汁しやすくなる

3 適正な防除の実施

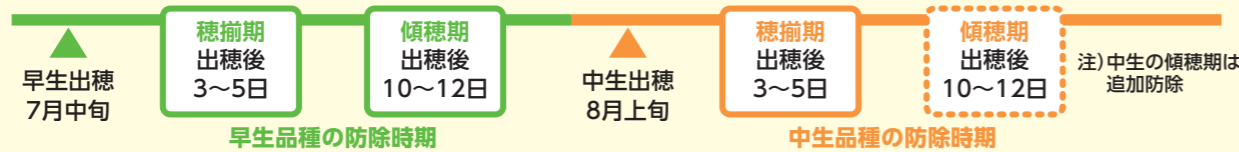
- **防除効果の高い薬剤を使用**
- 早生品種や大型カメムシが多い地域では、**穂揃期と傾穂期の2回防除を徹底**
- 防除後もカメムシが多い場合は追加防除
- 早生品種の2回目と中生品種の1回目は同時防除ができないので注意

大型のカメムシが山際を中心に増加しています。追加防除など対策の徹底を!



フモヘリカメムシ (体長約16mm)

品種ごとの防除時期の違い



春の土づくり運動(令和4年3月~5月)

- 土壌改良資材の施用により、ケイ酸・アルカリ分・加里等を補給する
- 堆肥や緑肥等有機物の施用により、土壌の肥沃度、保水性・排水性を向上させる
- 深耕により作物の根域を拡大し、肥料の吸収効率を高める **作土深15cm以上を確保!**

高品質で美味しい米生産には土づくりが重要!



ブロードキャストによる土壌改良資材の散布



マニアスプレッドによる堆肥の散布

農業生産に由来するプラスチックの適正な取扱いについて

近年、海洋ごみなどのプラスチック問題が注目され、その対応が強く求められています。農業生産現場においても次の点を実践し、プラスチックと正しく付き合しましょう。

- **農業由来廃プラスチックの適正処理**
 - リサイクルの推進
 - リサイクルに必要な分別の徹底
 - JA等による回収システムの活用
- **農業由来廃プラスチックの排出抑制**
 - 耐久性の高い被覆資材等の利用
 - 資材の再利用の促進
 - 生分解性資材の活用
- **被覆肥料の被膜殻の流出防止**
 - 浅水代かきによる被膜殻流出防止
 - 浮き上がった被膜殻の回収
 - 田植前の強制落水の回避

高品質で美味しい富山米を食卓へ 「ほおばる幸せ。富山米」

令和3年産は、田植後および8月中旬以降の日照不足や7月後半の高温多照など変動する気象条件の中、1等米比率は93.6%(令和3年11月末)となっています。

令和4年産も、1等米比率90%以上を目指して技術対策の徹底をお願いします!



技術対策の4本柱

- 1 **5月15日を中心とした田植えの確実な実施**
- 2 **適正穂数の確保と過剰な籾数の防止**
- 3 **きめ細かい水管理・施肥による稲体活力の維持**
- 4 **カメムシ類による斑点米の発生防止**

「高品質で美味しい富山米ブランド」確立のための重点技術対策

～めざせ! 1等米比率90%以上～

1 5月15日を中心とした田植えの確実な実施

1 コシヒカリの田植えは5月15日を中心に!

- 出穂後の高温を避けるため、田植えは5月15日を中心に実施

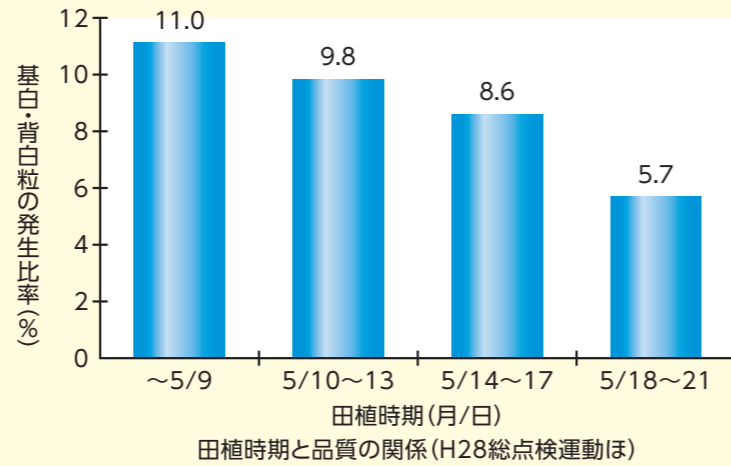
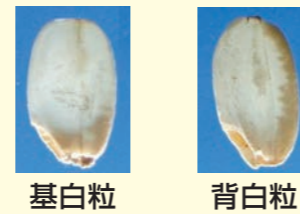
田植え日と出穂期及び登熟期間の気温

田植え日 (月/日)	出穂期 (月/日)	出穂後20日間の平均気温(℃)
5/5	7/28	28.0
5/10	8/1	27.9
5/15	8/4	27.7
5/20	8/7	27.4

※出穂期および気温は近年値(H24～R3)を用いた

近年の田植盛期は5/11頃
5/15中心の田植えで高温登熟の回避を!!

出穂後の高温で発生する未熟粒



出穂後の高温を回避すれば、基白・背白粒の発生が減少!

2 田植時期に合わせた播種・育苗を!

- 老化苗を防止し、活力の高い苗を育成するため、**浸種・播種は、あわてずに実施**
- 4月下旬以降は気温が上昇し、苗が長くなりやすいので、**搬出直後から積極的に換気**

昨年より1日遅く!

育苗計画の目安

浸種日	播種日	田植日	育苗日数	出穂期
4/8頃	4/19頃	5/10	21日	8/1頃
4/17頃	4/26頃	5/15	19日	8/4頃
4/25頃	5/3頃	5/20	17日	8/7頃

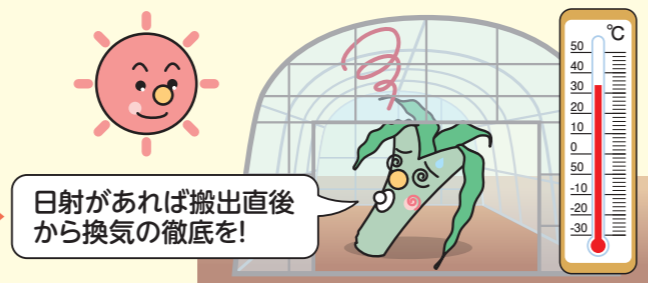
浸種の早い事例が多い!

播種日～田植日は**19日間以内**

近年の育苗期間は高温・高日射傾向

育苗期間中の温度管理の目安

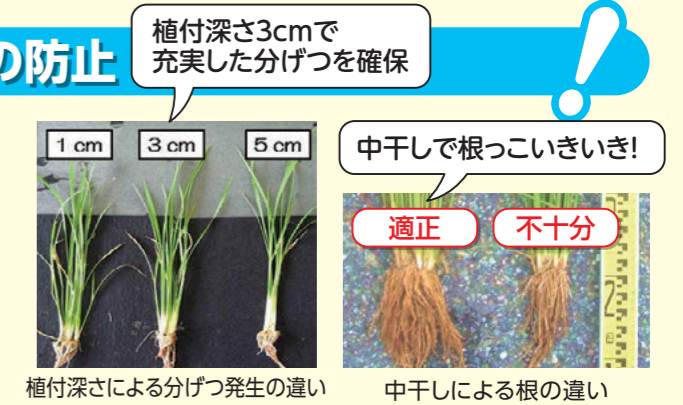
苗のステージ	出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数	3日	2～3日	13～15日
温度 昼	30℃	25℃以下	
温度 夜	30℃	10℃以上	



2 適正穂数の確保と過剰な籾数の防止

1 初期茎数の確保を!

- **栽植密度70株、植付本数3～4本、植付深さ3cmの徹底**
- 活着後の浅水管理(水深3cm)
- 土壌に応じた基肥窒素の施用
砂壤土3.0～4.0kg/10a
埴壤土1.8～2.6kg/10a



2 溝掘り・中干しの徹底を!

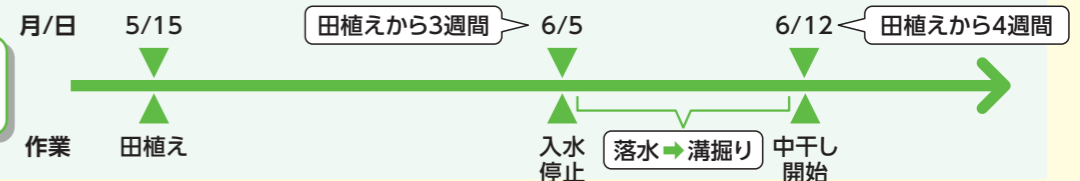
- 6月上旬の**溝掘りの実施**
- **中干しは田植後4週間までに確実に開始**

中干しが遅れると、過剰籾数に

中干し開始日の目安

田植日	入水停止	中干し開始日
5/10	5/31頃	6/7頃
5/15	6/5頃	6/12頃
5/20	6/10頃	6/17頃

溝掘り・中干し実施のイメージ

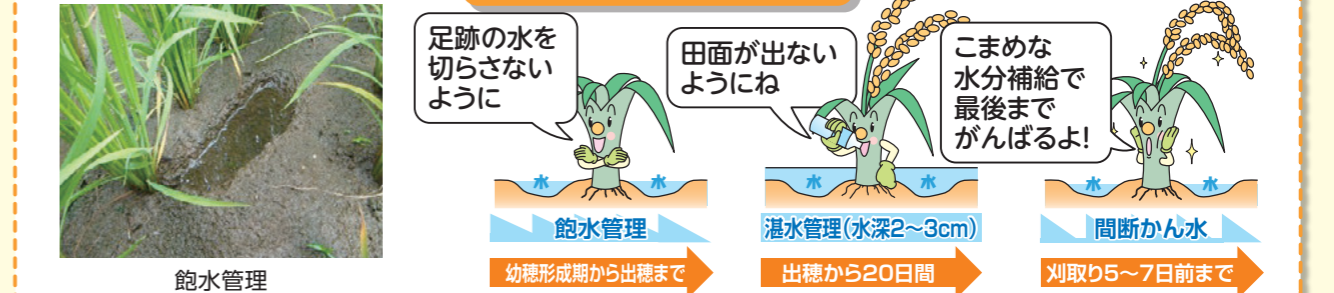


3 こまめな水管理・施肥による稲体活力の維持

1 こまめな水管理を!

- 幼穂形成期以降は**飽水管理**、出穂後20日間は**湛水管理**
- 刈取り5～7日前までは**間断かん水**

水管理のイメージ



2 的確な穂肥施用を!

- **穂前期の葉色を4.2～4.5(砂壤土は4.5)に誘導**
- 肥効調節型基肥栽培でも、葉色が薄い場合は**追加穂肥を施用**

